

令和5年度 第1回 学校運営協議会記録

令和5年5月11日（木）9：35～11：30

場所：会議室 記録：教務（山本）

1 開会

2 委嘱状伝達

3 校長挨拶

(1) 学校紹介

立地や歴史的な背景から見た本校（本校から2kmのところに、阿野全成の墓や興国寺の城跡がある）。

(2) 学校経営画書について

学校教育目標 「共に育てる自立と輝き」

「共に」…学校、保護者、地域、児童同士、自分自身も含めて。学校以外でも、地域とともに、関係機関とともにということで、ここには学校運営協議会も入ってくる。

「自立」…それぞれのステージでできることを増やす。次に向かって今あること、できることを精一杯行うこと。小学部だから実行できないのではなく、それぞれの段階でできることがたくさんある。

「輝き」…自分のいいところを伸ばし、他社から認められ自信をもって生きていける力を高めるということ。もう一つの側面があり、うまくいった、成功した姿ばかりだけでなく、子どもたちも、職員も、何か事に当たるときに、逃げずに真正面から向かっていき、懸命に解決しようとする。そういう姿も輝いていていいなと思うので、そういったことも含めて輝きと考えている。

「校章のおもい」…小中高それぞれの子どもたちがみんなで仲良く手をつないで頑張っている子どもの姿で、つぼみから大きく育てていくという形をしている。

(3) グランドデザインについて

小中高つながりをもって取り組んでいく。学校経営の下支えのもと、小中高等部がそれぞれの自立と輝きを目指して目標に迫っている。こういったイメージをデザインさせていただいた。チームというところも非常に大事にさせていただいている。

(4) その他

- ・今年度から完全に一市二町になった。今年度は全校217人である。伊豆の国特支ができる前の令和2年度が381人でマックスだった。200人前後を想定して作られた学校のため、適正人数となってきた。
- ・本校は知的障害の学校であり、知的障害と他の障害を併せもった児童生徒がいる。

養護学校の義務制に伴い、静岡北特支、浜松特支、沼津特支として開校した。知的障害教育学校として、東部地区の中心校である。

- ・知的障害教育学校の特徴として、合わせた授業を行うことができる。生活のテーマやいろいろな作業の課題を解決していくこととして、生活に役立つ授業を行っている。小中学校のように〇年生の授業ではなく、発達やできることによって指導の段階がある。
- ・このような教育を行っていくにあたり、すべての基盤につながりがある。12年間一貫してできる教育をやっている学校はなかなかない。その指導のつながり、学部のつながり、保護者とのつながり、学園とのつながり、そして地域とのつながり、それを一番の要となっているのは、学校運営協議会だと考えている。つながりをもって学校経営をしていく。これが本校のグランドデザインが一番大きな軸のチームとなっている。
- ・沼特マインド 愛鷹山のあちらよりこちら…本校が一番という思いをもつ。
- ・専門性の向上には想像力を大切にする。子どもたちのことを理解して進めていくといったときに、自分と同じだと思っただけではうまくいかない。保護者と話をしているときも、保護者の気持ちをどれだけ想像できるかという想像力が大切。専門性を向上させるという意味でもチームとしてお互いのことを大事にするという意味でも、想像力を大切にしようとしている。
- ・学校経営書と目指す学校像の承認⇒承認

4 自己紹介（学校運営協議会委員、本校教職員）

- ・村本 幸雄 様（元特別支援学校長）
- ・池谷 修 様（障害者支援施設 沼津のぞみの里 施設長）
- ・山本 幸平 様（原地区連合自治会 会長）
- ・石原 厚 様（沼津市商工会 事務局長）
- ・草谷 修一 様（沼津特別支援学校PTA会長）
- ・芹澤 和代 様（社会福祉法人長泉町社会福祉協議会 会長）
- ・梶浦 寛美 様（清水町健幸づくり課 主任）

会長・副会長の決定

会 長：村本 幸雄 様

副会長：池谷 修 様

5 学校参観

6 協議等「地域等との連携による学習活動の実施について」

(1) 各学部の連携の実際についての報告（各学部）

<小学部から>

- ・地域交流や演劇鑑賞を計画していたが、昨年度はコロナで中止となってしまった。文化芸術やスポーツ、お店や地域の方々とのかかわりなど、様々な経験を通して、興味関心やコミュニケーションの幅を広げていきたい。学校内や校外で積極的にかかわることで子どもたちのことを知っていただける機会にしたいと考えている。

<中学部から>

- ・園芸班が愛鷹広域公園の方や地区の方々との花壇づくりを行っている。また、アスルクラロ沼津の選手が来校し、生徒たちにサッカーを教えていただく予定になっている。
- ・委員会でアルミ缶やペットボトルつぶしを行っており、潰したものを地域の事業所に納品したいと考えているが、納品先を探している。近いところであれば生徒が徒歩で納品する。遠ければ、取に来ていただける先を求めている。どこかご存じであれば教えていただきたい。
- ・地域交流や保育園交流は、活動を通して様々な人と関わる機会にしている。
- ・昨年度運営協議会で紹介いただいたハンドベルの演奏会を行いたいと考えている。
- ・今後は、書道のパフォーマンスをできればと考えている。大きな紙に筆で書く迫力や表現活動を見て、授業の中に返していければというように思っている。
- ・中学部では、仲間と一緒に様々なことに挑戦し、周りの人と一緒に自分の生活を豊かに過ごせる力をつけていく。学校では味わえない経験や人とのかかわる力を養うことを目的に地域の方々との連携をしていければと思っている。

<高等部から>

- ・製品を作ったり、清掃をしたりする活動を通して、社会参加・働くための姿勢や態度能力を身に付ける学習として行っている作業学習を中心に、地域の方と連携させていただいている。地元の農家の方にご指導いただきながら、プチヴェールやブロッコリーなどを育てている。紙工班では、紙バンドを作ったり、学校で出る画用紙の廃材を使って紙漉きをして色紙を作り、そこにクラフトの花飾りを付けて作った短冊を、洋菓子店の焼き菓子を入れる籠やお茶屋さんの製品タグとして納品をしたりしている。陶芸班は、福祉事業所で行われているカフェへのお皿の納品、クリーンサービス班は地域の清掃活動をさせていただいている。
- ・芸術や社会参加・自立に向けて、アフリカ民族音楽の体験やメイクアップ講座 などでも、協力いただいている。
- ・昨年度、陶芸の専門性が高く、教員の作業がうまくいかないところがあり悩んでいたが、運営協議会を経て協力いただけることになり、長泉町の加藤様に教員のスキルアップのために陶芸班の指導をしてもらうことになった。
- ・学習の中で、学校周辺の地域についての学習を行っているので、原地区の文化や歴

史、産業などについて生徒たりがテーマを設けて学んでいく。地域の方にアドバイスをさせていただいたり、地域の方と一緒に話をしながら活動をする、町を歩くなどできたりすると素敵だなと思う。

- ・クリーンサービス班の清掃活動は、コロナでかなり縮小していて、清掃をさせていただく場所が定期的に確保できない状況になっていた。今年度は改善されるかと思うので、せひ、掃き掃除、拭き掃除や大きな窓清掃も学習するので、成果が発揮できる場所がいただけたら嬉しい。
- ・高等部は、社会に出ていく学部である。社会参加・自立を見据えて、社会地域の方と関わる経験のなかで、自分に自信をもったり、自分の価値観や価値付け、働きがいといったところにつながったりするように地域の方たちと学習し、コミュニケーションをとっていく力も身につけていって欲しいと思っている。

(2) 質問・意見等

<委員から>

- ・小中学部のハンドベル演奏は、決定した日や時間を知らせていただきたい。曲もいろいろあるので、生徒と一緒に楽しんでできたらよい。発足して30年。様々な場で披露できるとよい。
- ・コロナ対策も緩和されてきたので、保護者や地域の日とも招待できるとよい。
- ・PRのためにも、多くの人に来てもらえると良い。
- ・10月にさつまいもの収穫を行うので、学校の畑に来てもらって小1～3年生と一緒に掘ってもらうことができると考えている。
- ・これまでに地域の方の参加はなかったか？人数が多すぎても困るかもしれない。活動が進んでいけば、広いところでやろうか…という話にもなるかもしれない。学校の畑の広さなども分からないと人数も集められないので、資料と早めに連絡をいただければ対応ができる。

(小主事) 町探検は、5・6年生が行う。

<委員から>

- ・原の駅前が整備されてきている。公衆トイレを設置する計画もある。その辺りや花壇等通るところと一緒に整備していけるとよい。木工班がプランターを使用するとか。
- ・先生方も実際に自分の足で歩いて地域を知るということをするとよい。気付いたことを地域に伝えるようにしてはどうか。
- ・商工会も含めて 原の良いところ、悪いところをディスカッションしたことがある。良いところは自然、悪いところは、文化や歴史を知らないということがあった。この辺りはPRしていきたい。

(中主事) アルミ缶の回収は、以前ウィサポートゆうに納品していたが、移転してしまった。マムに来てもらったこともある。歩いて行けるところ、回収してくれるところ、どちらでもよい。

<委員から>

- ・納品までは生徒が行い、その先はP T Aを絡めるのはどうか。金属回収はお金が発生する。P T A会費の収入に入れてもよいか。

(副校長) ベルマーク回収のようにもできるか。

<委員から>

- ・回収している業者はある。量があれば業者が来てくれると思う。P T Aと協働していく。
- ・アスルクラロ沼津は、地域のなかにも好きな人がいるのではないか。見たい人もいるかもしれないので、声を掛けてもいいのではないか。
- ・お茶の製品についてそれぞれの学部で取り入れることができないか。買いたいもの、人に渡せるような商品だとよい。

(高主事) 地元のお茶について学ぶ授業を今年度は取り入れる。

<委員から>

- ・ぬまっちはおいしい。茶摘みの体験からはじめても良いのでは。
- ・P T Aで茶葉を買ってもらって、高等部で加工して“沼特茶”としたら少し特別感がある。学部のつながりとしてプロジェクトとしてつながることもできるか。清水特支がP T Aと協働して行っている。調べてみてもよいのでは。
- ・茶摘みは5月に行う。新年度始まってすぐなので、慌ただしい中でできるか。うまくサイクルが回ればよいが。

(校長) 学部ごとにいろいろな関わり方をすればいいですね。

<委員から>

- ・地元の産業と人をつながるって素敵ですね。高等部は、三年間終わると卒業して、その後社会につながっていく。それを意識したいろいろな活動が行えると良い。
- ・8月5日に原の夏祭りがある。コロナ前は製品販売で沼特も参加していた。出展料はかからない。ぜひ参加して欲しい。地域の人もたくさん来る。

(高主事) 沼津の福祉まつりには参加したことがあった。7月7日にららぽーとで展示を行うといったこともあるので、そういった中の一つに組み込んでいけると思う。

<委員から>

- ・地域の方が大勢来るので、支援学校の生徒さんたちが大きな声で「いらっしゃいませ。」と言ってくれると微笑ましいので、ぜひ参加してもらいたい。
- ・11月18日、19日は地区センターで文化祭がある。展示だけでもよい。できるところはPRしていきましょう。
- ・高等部は、老人ホームさんの清掃をコロナ前はしていたと聞いていますが。

(高主事) クリーンサービス班は原団地の集会所や憩いの家の清掃を昨年度行った。今年度は、もう少し出ていけるのではないかと考えている。どこかありましたら、教えていただきたい。学習を作業の時間は、月・水・金の午前中。清掃用具を持って歩いて行っている。

<委員から>

- ・遠いところは公用車が使えるか？

(校長) 公用車で道具を運ぶことはできる。

<委員から>

- ・以前は事業所（マミー）にも来てもらっていた。午前中なら預かっている児童生徒もいないので清掃に来てもらえると助かる。
- ・C&C（センターきぼう）も。
- ・実践していくなかで、全体が見えるような交流の機会を作っていく。部分的な交流から縦のつながりが分かるように。親も見通しがもてる。コロナ前は運動会や学習発表会は一度に行っていた。
- ・自治会は運動会をやるとういう気にならない。成長していく姿を見られる機会があると嬉しい。
- ・これから全校開催を工夫していけるとよい。教員も全校開催を知らない人が増えている。

(副校長) 実行から広げていく年にしたい。

7 第2回学校運営協議会の予定

期日：令和5年10月19日（木）

内容：前期の評価及び後期の取組

8 閉会

(校長) 沼特についてたくさん聞かせていただいた。地域にとってのメリットとして何があるのかと考えると こんな子がいるんだと知ってもらうなど、背伸びをしなくても普段行っていることを行い、地域に出ていくことが大切だと確認できた。